

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: R5 年 2 月 22 日

事業所名 放課後デイGranny弘前

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8	0		
	2	職員の配置数は適切である	8	0		更に医ケア児に対応できる体制を目指したい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8	0		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	1		すべてのスタッフが携わる事で、各自の責任と協調性を高めていきたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	0		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8	0		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	6		今後必要である。ランチャイスのチェックは毎月受けているが、職員に反映させる必要有り
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	1	事業所内研修を行うように心がけている	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	2	相談支援事業所の計画も反映させている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	6		適応行動のツールは使っていない。違うスコア・ツールが必要である。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	8	0		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	1	季節感を重視した壁面構成とし、更新している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	7	1		長期休暇時は、外出などアクティブな活動を入れたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8	0		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	2		出勤時間が違う為、一同に会しての打ち合わせは行えていない。引継ぎツールなどを今後使用する。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	3		終業時間の違い、送迎での不在の為、一同に会して行う事が出来ていないが、今後時間を見つけて行っていく。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8	0		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	1		6ヶ月毎のモニタリングは行っているが、もっとショートスパンでの考察も入れていく。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	7	1		
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8	0	医療的配慮が必要な利用者様が主であるため、看護師の参加を重視している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8	0	送迎時は、先生とのコミュニケーションを取るようになっている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	8	0	医療的配慮が必要な利用者様にたいしては、医師の指示書を頂いて対応している。	

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	3	情報共有は必要であるため、今後必ず実施していく。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	6	実績は無いが、今後必要に応じ実施する。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8	0	小児在宅支援センターより指導を受けている。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	8	コロナの終息に合わせ、設定を考えたい。今後の課題である。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	0	8	地域への参画も視野に入れていく。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	0	ご家族とのコミュニケーションは大切にする
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	7	ご家族から、学ぶことの方が多いが、支援出来る事は、伝えていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8	0	契約時説明はさせて頂いているが、分かり易く丁寧な説明に努める。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8	0	ご家族からの電話は24hつながる状態に対応させていただいている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	8	保護者会の開催は今後の課題である。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	0	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	0	毎月発行している。
	35	個人情報に十分注意している	8	0	会報では、顔が映る場面での家族への確認を必ず行
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	0	言語的、非言語的コミュニケーションを活用し、意思疎通に努めている。
非常時等の対応	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	8	コミュニティーへの参画は今後の課題である。地域に根ざし、貢献できる施設を目指す。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	5	マニュアルは有るが、ご家族への周知は今後きちんと丁寧に行っていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8	0	火災避難訓練は行ったが、それ以外の災害に応じた避難訓練も実施していく。利用者様に、呼吸機等電気に依存する機器を使用している方がおられるため、特に電源が落ちた状況での対応を考えていきたい。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8	0	3か月に一度は実施している。虐待防止、身体拘束の排除は、重要な問題である。定期的に研修を行い、倫理意識を高めていく必要がある。今後も事例研究等を行う機会を増やしていきたい。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	2	身体拘束に当たりそうな事例をご家族に十分了解をとるようにしている。
42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	4	重篤なアレルギーなどが無いか、家族への聞き取りは必ず行うようにしている	

43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8	0	ヒヤリハット事例を見逃さないように共通認識をもつようになっている。
----	---------------------------	---	---	-----------------------------------